

2月12日における基準価額の変動について

受益者向け資料
2016年2月15日

2016年2月12日、当社設定の公募投信のうち、以下のファンドの基準価額が5%以上下落していますので、お知らせいたします。

ファンド名	2月12日 基準価額	2月10日 基準価額	前営業日比	前営業日比 騰落率
イーストスプリング・ジャパン中小型 厳選バリュー株ファンド	9,933円	10,484円	-551円	-5.26%
イーストスプリング韓国株式オープン	10,256円	10,848円	-592円	-5.46%
イーストスプリング・インド株式オープン	10,734円	11,425円	-691円	-6.05%
イーストスプリング・インド・インフラ株式 ファンド	6,528円	6,975円	-447円	-6.41%
イーストスプリング・インド株式ファンド (3ヵ月決算型)	6,436円	6,843円	-407円	-5.95%
イーストスプリング・インド消費関連 ファンド	10,354円	11,038円	-684円	-6.20%

※基準価額は、信託報酬控除後の数値です。

【基準価額の下落要因となった主な市場環境】

(ご参考) 株価指数	2月12日	2月10日	騰落	騰落率
日経平均株価	14,952.61	15,713.39	-760.78	-4.84%
(ご参考) 為替レート	2月12日	2月10日	騰落	騰落率
米ドル	112.44円	114.73円	-2.29円	-2.00%

(ご参考) 株価指数	2月11日	2月9日	2月5日	9日から11日の 騰落率	5日から11日の 騰落率
韓国総合株価指数(現地通貨ベース)	1,861.54	休場	1,917.79	—	-2.93%
Nifty 50指数※(現地通貨ベース)	6,976.35	7,298.20	7,489.10	-4.41%	—
(ご参考) 為替レート	2月12日	2月10日	騰落率		
韓国ウォン(対円、100ウォン)	9.37円	9.59円	-2.29%		
インドルピー(対円)	1.66円	1.70円	-2.35%		

出所: 株価指数はBloomberg L.P.のデータ、為替レートは一般社団法人投資信託協会が発表する為替レートに基づく。

*Nifty 50指数はインドのナショナル証券取引所に上場する50銘柄で構成されたインドを代表する株価指数です。

※当資料はイーストスプリング・インベストメンツ株式会社が情報提供を目的として作成したものであり、特定の金融商品等の勧誘・販売を目的とするものではありません。また、金融商品取引法に基づく開示資料でもありません。※当資料は信頼できると判断された情報等をもとに作成していますが、必ずしも正確性、完全性を保証するものではありません。※当資料には、現在の見解および予想に基づく将来の見通しが含まれることがありますが、事前の通知なくこれらを変更したり修正したりすることがあります。また、将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。※当資料で使用しているグラフ、パフォーマンス等は参考データをご提供する目的で作成したものです。数値等の内容は過去の実績や将来の予測を示したものであり、将来を保証するものではありません。

英国ブルーデンシャル社はイーストスプリング・インベストメンツ株式会社の最終親会社です。最終親会社およびそのグループ会社は主に米国で事業を展開しているブルーデンシャル・ファイナンシャル社とは関係がありません。

イーストスプリング・インベストメンツ株式会社

金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第379号/加入協会 一般社団法人投資信託協会、一般社団法人日本投資顧問業協会

**基準価額下落の背景：
世界経済への不安から、安全資産に逃避する動きが
加速**

世界の金融市場で、安全性が高いとされる円や主要国の国債に資金が急速に流入しています。世界経済への不安が背景にありますが、11日には欧州主要銀行の業績悪化懸念が強まったほか、米国ではイエレン米連邦準備制度理事会(FRB)議長の議会証言を受け、グローバル経済や米景気動向に警戒感が広がり、金融市場全体に影響を及ぼしました。

**今後の見通し：
リスク回避の動きは継続する可能性
短期的な市場動向を注視するも、投資方針に変更なし**

世界的なリスク回避の動きが当面は継続する可能性があります。今回の下落局面のきっかけとなった、原油安や中国の景気悪化への懸念については引き続き注視が必要と考えます。

日本およびアジア株式市場のバリュエーションは過去と比較して相対的に魅力的な水準となっています。しかしながら短期的には外部要因に対する市場の過剰反応により、ファンダメンタルズに関係なく株式が売り込まれる局面が続くことも想定されます。

運用担当者は、そのような局面は、株価が企業本来の収益力から想定される適正水準から乖離することが多くバリュエーションが割安と判断される優良企業の株式を組み入れる好機と考えています。